



花宴

筆：山本 文雄様（なでしこ入居者）

発行責任者

社会福祉法人積慶園

特別養護老人ホーム山科積慶園

施設長 石黒 善治

京都市山科区北花山大林町34番地

電話(075)583-6277 FAX(075)594-2101

第41号 発行日：令和5年 4月 1日

開設15周年を迎えて
—ぬくもりと絆を大切に—



特別養護老人ホーム山科積慶園
施設長 石黒 善治

今年、特別養護老人ホーム山科積慶園が開設されて、15年を迎える節目の年です。

平成20年(2008年)、この山科の地に、「ぬくもりと絆」を大切にする施設を目指して開設し、以来、15年にわたり、地域の皆様、関係の皆様、ご家族の皆様のご支援、ご協力の下、介護の実践を重ねて参りました。

改めまして、地域の皆様、関係の皆様、ご家族の皆様と、真摯に入居者様の介護に取り組んでいるすべての職員の皆様に深く感謝申し上げます。

開設当初には、山科には、当施設のようなユニット型の介護施設は少なかったのですが、近年、大規模なユニット型の介護施設の開設が相次ぎ、当施設を取り巻く状況は厳しさを増してきております。こうしたときこそ、「ぬくもりと絆」を大切にする理念の下、職員一人ひとりの介護力の向上、施設全体としての介護力の更なる向上に努め、地域の更なる信頼を得る必要があります。

また、この数年間は、新型コロナウイルスの感染対策に忙殺されてきました。当施設においても、昨年1月に10人の感染者が出るクラスターが発生しました。

現在、国においては感染対策の緩和措置を講じることとしており、当施設においても、入居者様の外出レクリエーションの拡大等を検討しておりますが、引き続き必要な感染対策を講じていく必要があると考えております。ご家族様には今しばらくご不便をお掛けすることになりますが、ご理解、ご協力賜りますようお願いいたします。

開設15年は、人間で言えば、少年期を脱し青年期を迎えるころになります。これからも「ぬくもりと絆」を大切にし、「笑顔・感動・感謝」の経営理念の下、入居者様に寄り添った介護の弛みない実践を通し、地域の皆様、家族の皆様により信頼される施設、職員にとって笑顔と働きがいのある職場づくりを目指して参りますので、皆様の引き続きのご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

《開設記念行事》

ANNIVERSARY

みんなが集まって開設記念を祝いながらイベントを楽しむといったことができませんでしたが、昨年12月23日に周年記念イベントとして握り寿司の盛り合わせが昼食時に提供されました。普段は、食事に手が伸びにくい方が笑顔でお寿司を頬張る光景を見ると、やはりお寿司は美味しいだけではなく日本のソウルフードなのだなあと改めて思います。次回の開設記念日こそは、マグロの解体ショーなどの恒例の行事を存分に楽しめる日となることを切に願っています。(橘)



まぐろ・うに・いくら・サーモン等、皆様からは大好評でした



《クリスマスケーキ作り》

今年も利用者様達と一緒にクリスマスケーキ作りをしました。普段あまりご飯を食べられない方も甘い物は別腹なのか、残さず完食して下さる姿やケーキを見て喜んで下さる様子が見られて大変嬉しく思いました。皆さん素敵な思い出作りになったと思います。未だコロナが落ち着かず、皆さんに距離を取っていただきながらのケーキ作りだったのが少し心残りだったので、来年は気にせず輪になってわいわい楽しみながら

ケーキ作りがしたいです。(武田)



《もちつき大会》

コロナ禍の中、今年も思うように行事を行うことができなかったのですが、もちつき大会は無事行うことができました。寒空の下、入居者様の掛け声と共に職員が餅をついている姿を見ると、来年こそ行事をたくさん行い、入居者様の笑顔をたくさん見たいと思います。

ご家族様との面会もガラス越しではなく、ユニットで一緒に過ごせるようになることを願っております。(岡本)



《書き初め》

一年の始まりに、各ユニットにて恒例の書き初めを開催しました。

皆さん、久しぶりに筆を持っていただきましたが、達筆ですね。書き始めは「上手く書けるかな」「そんなん書かれへん」とおっしゃっていたのが、書いているうちに勘を取り戻され、力強く書いておられました。書き終えた「花宴」に関しましては、機関誌の題字に使用させていただきます。

(阪井)



《出前レク》

2月6日昼食時、出前レクとして握り寿司を食べて頂きました。施設の食事とは違ったお寿司に入居者の皆様とても

喜んでおられました。入居者様はお寿司が好きな方が多く、中にはお寿司についての蘊蓄を語られる方もおり、いつも以上に楽しく談笑しながら食べておられました。出前レクは入居者様からも毎回好評の為、今後もこのような機会を作り、

入居者様に楽しい時間を提供できる様にしたいです。(杉村)



《節分》

2月3日豆まきを行いました。今までは職員が鬼の服を着ていましたが、今回は鬼の人形を作り、入居者様と職員と一緒に豆（新聞紙を丸めたもの）を投げて楽しみました。普段は居室で過ごされている方も

リビングに出て来られ、皆で楽しく厄除けが出来て良かったと思います。

(岸本)



京都市より



10年勤続者の表彰を受けました

浅原稔さん（さくらユニット：H24.10月入職）

これだけ長く勤めることができたのは同じ2階のスタッフをはじめ、周りの職員や、今まで利用されてきた入所者・入居者様のおかげだと思っています。これからも色んなことを学んでいき、スタッフが一体となってより良い介護を目指していきたいと思っています。

服部尚子さん（ふじユニット：H24.7月入職）

10年勤続の表彰を受け、とても嬉しく思います。あっという間の10年だったような気がします。入職した頃は、入居者様とのコミュニケーションをとる事が難しく、悩んだ事も沢山ありましたが、ユニットスタッフや多くの方々の支えにより、やってこられたと思っています。これからは、入居者様の笑顔がもっとみられる様に日々努力をしていきたいと思っています。





リフト付き車両の寄贈を受けました



最近、送迎等で使用しているリフト車両の老朽化が目立ち、費用面・安全面において少し心配をしていました。福祉車両の寄贈をしている団体へいくつか応募をし、そのうち新車が当たれば・・・と思っていた中、読売テレビの24時間テレビ委員会から福祉車両の寄贈を受けました。3月10日に納車され、今では入居者様を病院へ送迎する時やお花見などの外出で大活躍です。コロナ前の様に色々な所に出掛け、入居者様に喜んでいただけたらと思います。今回寄贈いただいた24時間テレビの方には本当に感謝しております。(林)



大阪の読売テレビ本社にて贈呈式がありました。

《12月～3月のイベント食》

12月は周年記念、クリスマス、もちつきと行事が続き、それに合わせてお食事もちり盛り合わせ、ケーキ、お汁粉を提供しました。2023年も施設長からの挨拶とお屠蘇の振る舞いで幕を開け、1日～3日かけておせち料理を提供しました。今年は赤飯をユニットで盛り付ける事にした為、温かい赤飯を食べられて喜ばれていました。2月はTVでも蟹の特集が多く、蟹飯弁当や蟹ちらし寿司を提供しました。案内のポスターを貼りだした頃から提供日まで指折り数えて待たれていた方は、提供するとあっという間に食されており、蟹は魅惑の食材だと改めて思いました。生魚は3月まで提供可能な為、今年度は海鮮ちらし寿司で締める事にしました。(野崎)



おせち料理 (1月)



節分 (2月)



蟹ちらし寿司 (2月)



海鮮ちらし寿司 (3月)

医務室だより ～～ 新型コロナ 5月に5類に!?! ～～

令和5年3月13日より、マスク着用が個人の判断に委ねられるようになりました。世間では、まだ様子伺いの状態であり、つけている方が多いかと思われます。厚生労働省のリーフレットには、高齢者施設等に行く場合はマスク着用となっていることから、当園へお越しの際はマスク着用をお願いします。また面会に関しても、5月に第5類になったからといってすぐに直接の面会はまだ予定しておりません。感染の状況を鑑み、施設内で慎重に協議をし、決定する予定です。ご家族の皆様にはまだしばらくご不便をしますがご協力をよろしくお願いします。(小島)

***** 編集後記 *****

先日、園で育てていた石楠花(しゃくなげ)がきれいな花を咲かせました。入居者様をご覧になるとたいい「きれいやなあ」と近づいては花や葉を触ったり、ゆっくりながめたりと、うれしそうな・満足そうな表情をされるのが印象的でした。お花に疎い私も「少しはお花の良さを分らないと」と少し考えさせられました。花に触れたり、様々な色や香り、手先で感じる刺激は脳に良い影響を与えたり、ストレス解消効果もあるそうですね。(林)

